



「伝える」手段も、「伝わる」経路も、

かつてないほど多様な時代。

それなのに、“伝わらない”という

漠然とした不安を感じるのはなぜでしょうか。

伝える相手のことを考えていない。

内容の正確さよりも、インパクトの強さを優先してしまう。

そうした不確かなコミュニケーションが、

誤解やすれ違いを生んでいるのかもしれない。

今号で紹介する事例を通して

伝えること、伝わることの本质を見つめ直し、

今、どう向き合えばよいのか、

どうすればよいのかを考えたいと思います。